

プレスリリース

2020年、世界の再生可能エネルギー 導入容量が過去最高に

新型コロナウイルスの世界的な流行にもかかわらず、2020年の世界の再生可能エネルギー導入容量は260GWを越え、前年を50%近く上回りました。

フランチェスコ・ラ・カメラ IRENA 事務局長は再生可能エネルギーの10年の始まりを歓迎しています。

2021年4月5日、アラブ首長国連邦アブダビー新型コロナウイルスのパンデミックの影響で景気の減速が生じたにもかかわらず、2020年の世界の再生可能エネルギー導入容量は、これまでの予測や過去の全記録を上回る結果となりました。国際再生可能エネルギー機関（IRENA）が本日公表したデータでは、世界の再生可能エネルギー導入容量が昨年比で260ギガワット（GW）以上増加し、2019年の導入量を50%近く上回る伸びとなったことが明らかになっています。

IRENA がまとめた2021年版再生可能エネルギー容量統計によると、新規の電力容量全体における再生可能エネルギーの割合は2年連続で大幅に増加しています。昨年の新規電力容量の80%以上は再生可能エネルギー由来であり、太陽光と風力がその91%を占めました。

再生可能エネルギーのシェア拡大の一要因として、欧州や北米のほか、ユーラシア（アルメニア、アゼルバイジャン、ジョージア、ロシア、トルコ）でも化石燃料による火力発電からの撤退が始まったことが挙げられます。化石燃料由来の新規電力容量は前年の64GWから60GWに減少し、化石燃料の伸びの低下傾向は顕著な形で継続しています。

「この統計が語っているのは、回復力と希望という注目すべきストーリーです。2020年には難題や不安が発生しましたが、再生可能エネルギーはそれにもかかわらず、より良くより公平、強靱、クリーンで公正な未来への疑いのない楽観的な電源であることが明白になりました」と、フランチェスコ・ラ・カメラ IRENA 事務局長は語ります。そして、次のように続けます。「この重大なリセットは、現在の軌道を繁栄ある経路へと移し変えるための熟考や好機を提供するものであり、それらをつかもうとしている種々のサインも見られます。

困難な時期にもかかわらず、我々が予測したとおり、2020年は再生可能エネルギーの10年の始まりをしるす年になりました。コストの低減、クリーンテック市場の成長、そしてエネルギー転換による利益もこれまでになく明白です。この傾向は止まるところを知りませんが、我々の World Energy Transitions Outlook（世界エネルギー転換展望）要覧で明らかになったとおり、やるべきことはまだ山積しています。我々の1.5°C展望では、2050年の目的達成に向け、重要なエネルギー投資計画の見直しを通じたエネルギー転換へのテコ入れを求めています。行動を起こすことが重要となるこの10年、国際社会はより遠くへと前進するためのインスピレーションの源として、この傾向を見守っていかなければなりません」

設備容量については長期にわたり、前年に比べ緩やかな成長が続いていましたが、2020年には10.3%の増加が見られ、これまでの傾向を打ち破る発展となりました。2020年末、再生可能エネルギー由来の世界の発電容量は2,799GWを記録しました。太陽光や風力が急激に追い上げてはいるものの、最大のシェアを占めるのはやはり水力(1,211GW)です。2020年に新設された中で容量が大幅に増大した再生可能エネルギー源は太陽光と風力で、それぞれ127GWと111GWとなっています。

2020年に特に成長が目立った市場は中国と米国です。中国は昨年、風力72GW、太陽光49GWと、合計136GWの再生可能エネルギーを導入し、世界最大の市場に成長しました。米国は太陽光15GW、風力約14GWと、合計29GWの再生可能エネルギー設備を新設し、2019年比で80パーセント近くの増加を示しています。アフリカも2.6GW増と着実な拡大を続け、2019年よりわずかに増加。オセアニアは昨年も最も成長が速い地域(+18.4%)でしたが、世界シェアは小さく、ほぼすべての増加はオーストラリアで発生しています。

各技術分野の詳細：

- **水力**：2019年の時点で遅延となっていた種々の大規模プロジェクトが立ち上げられ、水力の成長は2020年に回復。最大容量を導入したのは中国で12GW。次がトルコの2.5GW。
- **風力**：2020年、風力は2019年に比べほぼ倍増(昨年の58GWから111GWに)。中国が72GWを導入、それに米国(14GW)が続く。2020年にはほかに10カ国が合計1GW以上の風力発電を導入。洋上風力発電が占める割合は約5%に増加。
- **太陽光**：太陽光による総発電容量は、2020年にアジアで大幅な容量拡大(78GW)が見られたため、風力による発電容量とほぼ同じレベルに達した。中国(49GW)とベトナム(11GW)の導入量が大きく、日本も5GW以上を導入したほか、インドと韓国でも4GW以上増加。米国は15GWを導入。
- **バイオエネルギー**：正味の導入容量は2020年の約半分(2019年の6.4GWから2.5GWに)にとどまった。中国で2GW以上の増加。それ以外で顕著な増加をもたらしたのは、2019年とほぼ同レベルの1.2GWを導入した欧州のみ。
- **地熱エネルギー**：2020年の増加はごくわずか。トルコで99MW増加したほか、ニュージーランド、米国、イタリアで多少増加。
- **オフグリッド電力**：2020年、オフグリッド型の発電容量は365MW増加し(2%)10.6GWに。太陽光は250MW増の4.3GW、水力はほぼ横ばいで約1.8GW。

###

国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) について

IRENAは持続可能なエネルギーの将来に向けて移行しようとする国を支援する国際的な政府間組織で、国際協力の主要なプラットフォーム、研究拠点、再生可能エネルギーに関する政策、技術、リソース、経済に関する知識の集積所として機能しています。IRENAは現在加盟数163カ国(162カ国と欧州連合)とその他加盟過程および積極的関与を行う21カ国をかかえ、あらゆる形の再生可能エネルギーの広い適用と持続可能な使用を推進し、持続可能

な開発、エネルギーへのアクセス、エネルギーのセキュリティ、低炭素経済の成長と繁栄を追求しています。

Damian Brandy, Communications Officer, IRENA, dbrandy@irena.org; +971 2 417 9016
IRENA を次でフォローしてください <https://twitter.com/irena>、 www.facebook.com/irena.org